

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

リゾート企業により1970年代に硫黄島に導入されました。鹿児島県では緊急防除種に指定されています。ヘリグロヒメカゲなどの学術的に貴重な種を捕食する影響が出ています。拡大を防ぐために、できるだけ飼育をしない、飼育する場合は、施設の破損などにより逃げ出すことがないように注意し、生息地域を拡げないようにしましょう。野外で見かけたら、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。

1 基本情報		
分類		
目・科名	キジ目キジ科	
種名(亜種名)	インドクジャク	
学名	<i>Pavo cristatus</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南アジア	
県内初報告	1970年代	
県内への侵入の経緯	リゾート企業により1970年代に導入された	
県内の侵入分布	硫黄島	
全国の侵入分布	鹿児島県硫黄島(大隈諸島)、先島諸島(宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、与那国島)で生息が確認されている 宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、与那国島では定着しており、個体数が増加している。福島、埼玉、滋賀、三重、愛媛の各県、香川県小豆島にも導入	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型ほ乳類、は虫類(トカゲ、小型のヘビ)、昆虫類、植物の芽、種子、果実を食べる。 一夫多妻で、小さな群れをつくる。夜は樹上で休む。	
形態	全長90～130cm。オスの尾羽は2～2.5m。頭は金属光沢のある青色で、扇状の冠のような羽がある。目の上下には白い帯が入る。上胸は青色、背は金属光沢のある緑色、下胸、腹、腰は黒緑色。オスの金属光沢のある緑色の尾には目玉模様がある。	
繁殖形態	一夫多妻でオスはハーレムを形成する。一回の産卵数は6～8個。メスが抱卵と子育てを行う。	
生息環境	低山帯の樹林、草原、農耕地	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①ヘリグロヒメトカゲなどの学術的に貴重な種の捕食。 ②沖縄県では、サトウキビやサツマイモの新芽、野菜類、家畜飼料への食害が確認されている。
県内で特に予想される被害	硫黄島に生息する学術的に貴重な種の捕食。サツマイモなどの野菜類への食害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②観賞用などで持ち込まれた個体の野生化。
3 対策	
インドクジャクとの関わり方	硫黄島で確認されています。拡大を防ぐために、できるだけ飼育をしない、飼育する場合は、施設の破損などにより逃げ出すことがないように注意し、生息地域を拡げないようにしましょう。野外で見かけたら、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。
見分け方	インドクジャクのオスの尾羽には、特徴的な目玉模様がある。本種に似た在来種は、日本にはいない。
見かけやすい場所・時間	昼間に活動する。主に低山帯の樹林、草原、農耕地など様々な環境に生息する。
防除方法	囲いわなによる捕獲。
防除の取組事例	沖縄県の竹富島、古浜島、黒島では、わなや銃器、探索犬などによる防除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20400.html 日本生態学会編(2002)外来種ハンドブック. 地人書館. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 黒島研究所ホームページ 外来種インドクジャクについて http://www.kuroshima.org/pg129.html 八重山毎日新聞 2015年12月16日記事 http://www.y-mainichi.co.jp/news/28971/ 沖縄タイムス 2016年5月13日記事 http://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/30643